

沙流川におけるアイヌ文化の伝統行事であるチッサンケの施設整備について

About maintenace facility of “Cipsanke” a traditinal event of “Ainu” culture in the Saru-River

水工事業本部 水工第2部 佐藤 正規
水工事業本部 水工第2部 清水 洋平

北海道は、アイヌ語由来の地名が各地に存在しており、アイヌ文化と深い関わりを持っている。2019年にはアイヌの人々の誇りが尊重される社会の実現等を目的とした「アイヌ新法」が施行され、続いて、2020年7月には、民族共生象徴空間（ウポポイ）が白老町にオープンした。民族共生象徴空間は、アイヌの歴史・文化等に関する国民各層の幅広い理解の促進、アイヌ文化の継承や創造発展につなげる拠点として整備されました。

沙流川流域は、アイヌの人々の生活の足跡が数多く残された地域で発掘された遺跡から二風谷地区周辺は、道内有数規模の集落を形成していたことが知られている。

平取町かわまちづくり（平成21年5月登録、平成28年3月変更）では、平取地域イオル再生事業と連携し、水辺で採取・育成する植栽の場の創出や、フットパスによる河川空間の利活用等に取り組んでいる。本稿では、沙流川沿いの「チッサンケ」と呼ばれるアイヌ伝統文化伝承の場の整備について紹介する。

1 はじめに

「チッサンケ」とは、アイヌ語で「舟おろし」を意味し（「チッ」は丸木舟、「サンケ」は下すの意味）、古来から伝わる技法で作られた舟に魂を入れる進水儀式である。毎年8月に沙流川で行われ、カムイノミ（神に祈る）の後、「チッ」に多くの人が乗り込み、伝統行事を体験している。



写真 1.1 カムイノミ



写真 1.2 川下り

チッサンケを実施している沙流川二風谷地区では、流下能力が不足していることから河道掘削が必要な区間となっている。このため、河道掘削と併せたチッサンケで利用する舟降ろし場、舟上げ場等の整備について、施設利用者等と意見交換を重ねながら安全性、利便性、景観等に配慮した施設設計を行った。

2 チッサンケ施設の整備について

2.1 施設位置

図 2.1 に示すように、現在チッサンケは、二風谷ダム下流の中州左岸流路で実施しており、シケレベ川合流点付近を舟降ろし場（出発地点）とした延長約 700m の区間となっている。



図 2.1 平面図

2.2 舟降ろし場の整備

現況の舟降ろし場は、図 2.2 に示すように平面が S 字屈曲形状で湾曲外岸部が水衝部となっており、図 2.3 に示すように勾配が 1/60 と急勾配で周辺より流速が速いため、河岸侵食等が発生しやすく、舟降ろし作業の支障となっている。

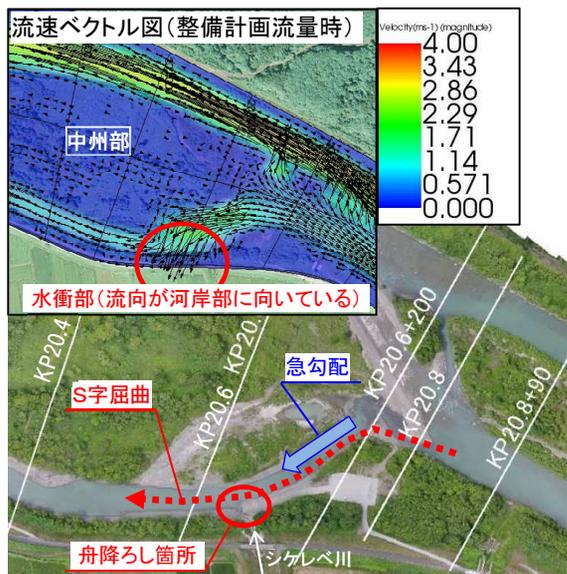


図 2.2 舟降りし場の現況河道状況

舟降りし場は、図 2.4、図 2.5 に示すように流下能力確保や河岸侵食抑制のため水路幅 20m の直線水路を設置し、それに合わせて舟降りし場に必要の整備を行った。

チッサンケに使用する舟は丸木舟であり、流下時の安定性と安全性を確保するため、河床勾配を 1/60 から 1/300 に緩和し水深 1.0m を確保した。

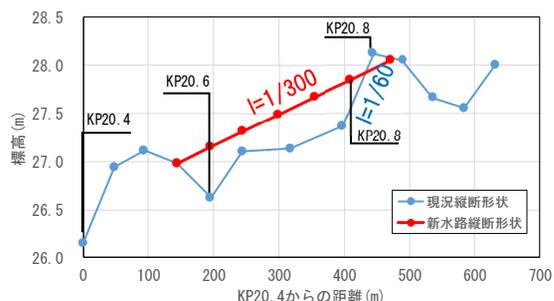


図 2.3 現況と新水路の縦断形状

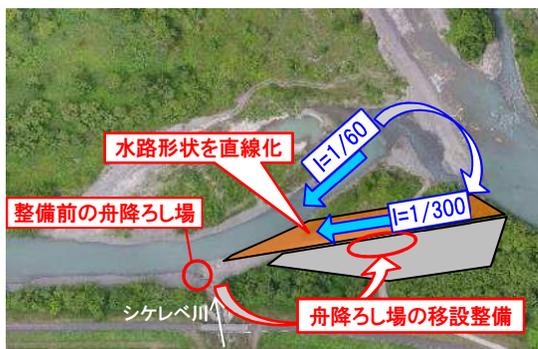


図 2.4 舟降りし場の整備イメージ図

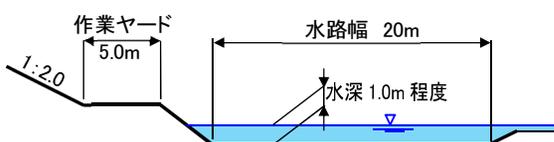


図 2.5 新水路断面図



図 2.6 舟降りし場のイメージパース図

2.3 舟上げ場の整備

図 2.7、図 2.8 に示すように下船時の安全性を確保するため下流側約 120m の水路 (敷幅約 5.0m) を掘削し、舟上げ場に必要の整備を行った。



図 2.7 舟上げ場の整備イメージ



図 2.8 舟上げ場のイメージパース図



写真 2.1 整備後のチッサンケの状況

2.4 見学通路の整備

舟下り区間には、図 2.9 に示すように舟下りの見学や監視が可能な見学通路と見学スペース（100m 間隔）を高水敷に整備した。

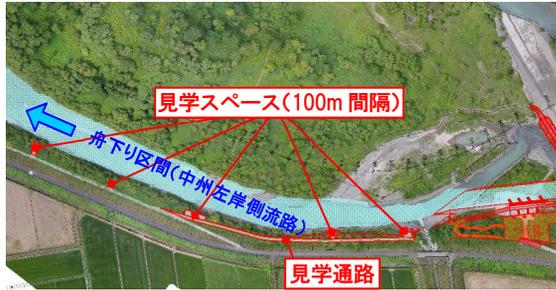


図 2.9 見学通路（管理用道路）の整備平面図



写真 2.2 見学通路の整備状況



写真 2.3 見学スペースの整備状況

2.5 施設設計

(1) チッサンケ使用の舟と搬出入方法

チッサンケは、チャラセ（長さ=約 11m）と呼ばれる舟 1 隻と丸木舟（長さ=約 8m）4 隻で行われ、舟の搬出入は、ユニック付トラックで行っている。



写真 2.4 丸木舟とチャラセ



写真 2.5 舟の搬出状況

(2) 整備方針

① 舟の搬出入に必要な整備は、図 2.10 に示すように断面形状をユニック付トラックの必要作業ヤード（5.0m）、作業半径（5.0m）を確保した。平面形状は、図 2.11 に示すように堤防天端からトラックが進入し、退出して舟上げ場に向かう迄の車両軌跡等を考慮して設計した。

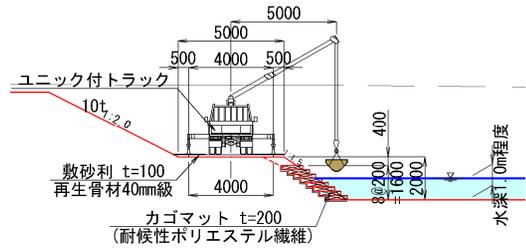


図 2.10 舟降ろし場の標準断面図



図 2.11 舟降ろし場の整備平面図

② 舟降ろし場、舟上げ場の河岸部は、侵食防止や安全に乗船するため多段積みのかごマットを設置した。通常のかごマットは、素材がメッキ鉄線で厚さが約 50cm となっているが、利用者の安全性に配慮し、素材を耐候性ポリエステル繊維、厚さを安全に昇降できる 20cm とした。



写真 2.6 かごマット設置状況（舟上げ場）

③ 舟降ろし場は、4 隻の舟の停泊と乗船時の利便性・安全性に配慮して多段積みかごマットによる突堤を配置した（図 2.12 参照）。

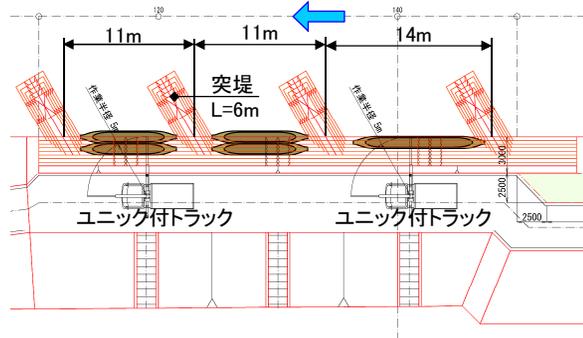


図 2.12 舟降ろし場の平面図

3 流量調節施設の整備

チッサンケは、河川流量が多い場合に中止や場所を変更して実施してきた経緯があるため、安全で安定的にチッサンケの実施が可能となる流量調節施設（河道掘削時の仮設道路としても使用）を設置した。

これまでのチッサンケは、本川流量が $40\text{m}^3/\text{s}$ 以下で安全に実施されてきた。このため、流量調節施設の目標流量は、本川流量が $40\text{m}^3/\text{s}$ 時の中州左岸側流路の流量程度とした。

平面 2 次元流況計算（iRICNays2DFlood）から本川流量の 25% が中州左岸側に流れることが推定され、目標流量を $10\text{m}^3/\text{s}$ ($40\text{m}^3/\text{s} \times 25\%$) とした。



図 3.1 流量調節施設の概念図

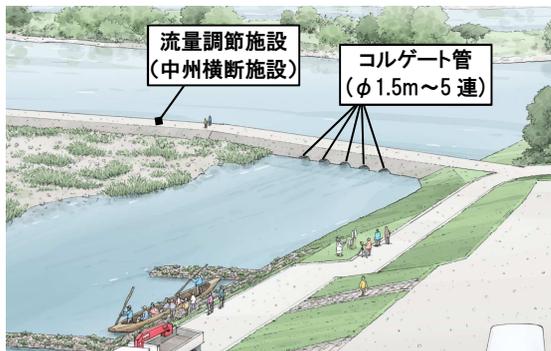


図 3.2 流量調節施設のイメージパース図

4 中州の活用

中州には、セリ、オギ、オオイタドリやドロノキ等のアイヌ文化の有用植物等が繁茂している。

流量調節施設を利用した中州への横断や、有用植物と触れあえる遊歩道の整備等について、平取町と連携して中州の有効活用を検討している。



写真 4.1 中州の状況

5 意見交換会の実施

チッサンケの施設整備においては、平成 30 年度からチッサンケ実行委員会、平取アイヌ協会、平取町、室蘭開発建設部等で構成される「平取町かわまちづくりに係る意見交換会」を開催し、3D パースによる完成イメージ図や施設規模等を現地で確認しながら意見交換、情報共有し、施設の配置、形状、形式等について決定した。



写真 5.1 意見交換会の状況

6 おわりに

2020 年 7 月に民族共生象徴空間（ウポポイ）がオープンする等、アイヌ文化への関心が高まっています。平取町には二風谷アイヌ文化博物館、沙流川歴史館、チセ郡（チセ：アイヌの伝統的な住居建築）等のアイヌ文化に触れられる数多くの施設があります。毎年 8 月に開催される「チッサンケ」は、舟下り体験のほか、木彫り体験、古式舞踊、ユカラと語りべ等、一般の人が参加できるイベントとなっています。

令和 2 年度には本設計の施設が完成する予定で、令和 3 年からは新たな施設でチッサンケが実施されます。

皆様も機会がありましたらチッサンケを体験されてみてはいかがでしょうか。